

# 拠点分散地域における交流型景観まちづくりに関する考察\*

## —岐阜県恵那市山岡町における景観まちづくりワークショップの取り組みから—

### A study on the landscape workshop way for local communication \*

#### -A case study in Yamaoka landscape workshop-

川島正嵩\*\* 岡田智秀\*\* 朽木健二\*\*\* 島田かおり\*\*\*\* 大西慧\*\*\*\*

Masataka KAWASHIMA\*\*\*・Tomohide OKADA\*\*・Kenji KUCHIKI\*\*\*・Kaori SHIMADA\*\*\*\*・Kei ONISHI\*\*\*\*

### 1. 研究背景および目的

現在、筆者らが取り組んでいる岐阜県恵那市景観計画策定作業<sup>\*1</sup>は、平成16年の市町村合併(旧恵那市と周辺5町村の合併)を背景に、合併後の新市内(全13自治区)の地域連携と各地区の経済的自立を実現させるための手段として位置づけられている。こうした“合併後”の景観計画において、その運用の担い手は、お互いの価値を認識・共有しきれていない新市内の行政・住民であることをふまえると、策定作業の初期段階から新市内の住民・行政および調整役の専門家等が共通の論点で議論し、地域に対する価値意識や風景観を育てていけるような仕組みづくりが重要と考える。

そこで、筆者らは恵那市景観計画策定にあたり、その初期段階から様々な立場の参加者が共通の論点で協議を進めていくことができるワークショップ(以下、WS)形式による景観まちづくりを展開することとした。

まちづくりWSに関する近年の研究報告は、錦澤ら<sup>1)~3)</sup>に代表する都市計画マスタープラン作成過程に着目した研究や、天野ら<sup>4)</sup>の公園整備など多くの分野で蓄積されつつある。一方、景観まちづくりの分野における研究報告では、古賀ら<sup>5)</sup>の合意形成を促進させるためのイメージ共有手法に関する研究や、高橋ら<sup>6)</sup>の景観計画の立案過程に関する研究が報告されている。しかしながら、景観まちづくりにおけるWSの展開方法や課題点、有用性などは未だ明確になっておらず、WS形式による景観まちづくりの手法は確立されていないのが現状である。

以上をふまえ、本研究では、筆者らが取り組む「恵那市景観まちづくりWS」の運用実態とともに、その課題と有効性について明らかにすることを目的とする。

### 2. 本研究の枠組み

恵那市景観計画は、市域全体を対象とし、新市内全13

地区の自立を目標に地域別景観計画を策定する。その取り組みとして、まず、恵南地域で総合的に人口が多く明知鉄道で結ばれる4地区(岩村町城下、岩村町富田、明智町、山岡町)を対象とし、筆者らは早稲田大学佐々木葉研究室と連携して「山岡町景観まちづくりWS」を展開している。このWSはこれまでに全4回(第4回は成果報告会)を実施した。そこで、本稿では、成果報告会に到達するまでの第1~3回にわたるWSの展開方法や、その工夫点・問題点・成果を論考する。

### 3. 山岡町概要

山岡町は岐阜県南東部に位置し、鎌倉時代から続く「馬場・山田・久保原・上手向・下手向・釜屋・原・田代」の8つの村が過去に2度の合併を経て形成された町である(図-1)。その町の中心を流れる小里川の周辺は、平地で肥沃な土地となっており、弥生時代から農業が盛んであった。また、良質な陶土も採取できることから、江戸時代末期より陶土採掘(写真-1)が行われてきた。さらに、大正時代になると、農家の副業として地域特有の昼夜の気温差を活かした寒天製造(写真-2)が行われるようになり、これらは山岡町の三大産業として現在でも営まれている。



図-1 山岡町概要図



写真-1 陶土採掘現場



写真-2 寒天干し

\*キーワード: 景観計画、ワークショップ、地域交流

\*\*正会員、工博、日本大学理工学部海洋建築工学科

(千葉県船橋市習志野台7-24-1、TEL:047-469-5427)

\*\*\*学生会員、日本大学大学院理工学研究科不動産科学専攻

\*\*\*\*学生会員、日本大学大学院理工学研究科海洋建築工学科専攻

表-1 山岡町景観まちづくりワークショップの概要※2、3

	第1回山岡町景観まちづくりワークショップ	第2回山岡町景観まちづくりワークショップ	第3回山岡町景観まちづくりワークショップ
開催概要	<p>■開催年月日：2009年10月10日(土)</p> <p>■参加人数：12人(東地区：7人 西地区：5人)</p> <p>■場所：ヒマリーハウス(イワクラ公園内)</p>	<p>■開催年月日：2009年11月3日(火・祝)</p> <p>■参加人数：24人(東地区：16人 西地区：8人)</p> <p>■場所：ヒマリーハウス(イワクラ公園内)</p>	<p>■開催年月日：2009年12月5日(土)</p> <p>■参加人数：12人(東地区：7人 西地区：5人)</p> <p>■場所：ヒマリーハウス(イワクラ公園内)</p>
プログラム内容	<p>■ワークショップの目的</p> <p>山岡町の景観資源の発掘 →景観計画策定へ向けた第一段階</p> <p>■プログラムの特徴</p> <p>◆居住地ごとのグループ分け 目的：土地勘を共有しながらより地域に密着した景観資源を抽出するため 「東グループ」：久保原・馬場山田・田沢・上手向 「西グループ」：釜屋・下手向・田代・原</p> <p>◆地図上まちなあるきに用いた地図 山岡町周辺(1500分の1) 山岡町全体(4500分の1) 2種類の大地図</p> <p>◆宿題 目的：WSであげきれなかった資源の抽出 内容：インスタントカメラによる景観資源の撮影</p>	<p>■ワークショップの目的</p> <p>景観を通じた地域交流 ・山岡町に対する東西での住民意識に差異があったため</p> <p>・東地区住民と西地区住民の地域交流 ・互いに異なる景観要素の共有 ・相手方地区について考える</p> <p>■プログラムの特徴</p> <p>◆①まちあるきルート選定 目的：地元地区のお薦めまちあるきルートの構築と同時地元地区の景観資源の確認</p> <p>◆②地域交流型まちあるき 目的：相手方地区のまちあるきを実施。相手方地区の景観資源の認識を通じて、山岡町のイメージを共有する。</p>	<p>■ワークショップの目的</p> <p>東西住民による景観目標像の構築 ・山岡町らしい風景について考える ・これからの山岡町のあるべき姿について考える ・またそのための実現化案の検討 ・東西住民が連携してこれらを作り上げる</p> <p>■プログラムの特徴</p> <p>◆①宿題写真投票 目的：今まで挙げられなかった景観資源に共通の価値を見出すため</p> <p>◆②「今後も大切にしていきたいもの」の議論 目的：地元地区の大切な風景・風習の確認</p> <p>◆③「これからの山岡町について」の議論 目的：東西混成グループによる、山岡町の地或目標像の構築と、そのための実現化案。</p>
	<p>■当日のスケジュール</p> <p>13:30 主催者あいさつ&amp;スタッフ紹介 13:50 ワークショップの趣旨説明&amp;プログラム確認 14:05 ◆居住地ごとのグループ分け グループ：東西地区別2グループ</p> <p>14:10 ◆地図上まちなあるき グループ：東西地区別2グループ</p> <p>14:25 中間発表(駅周辺の資源について) 15:10 中間発表(山岡町全体の景観資源について) 15:25 休憩 15:40 グループで集めた情報の成果報告 16:25 次回案内◆宿題の説明・閉会のあいさつ 16:40 感想カード記入・解散</p>	<p>■当日のスケジュール</p> <p>13:30 主催者あいさつ&amp;スタッフ紹介 13:40 ワークショップの趣旨説明 &amp;プログラム確認</p> <p>13:50 ◆①まちあるきルート選定 グループ：東西地区別2グループ</p> <p>14:35 ◆②地域交流型まちあるき グループ：東西地区別4グループ</p> <p>15:35 休憩 16:10 相手方地区をまちあるきした感 総についてグループごとに発表 16:30 学生(スタッフ)が感じた山岡地区 と第1回WSの宿題の成果報告 16:50 次回案内・閉会のあいさつ 16:55 感想カード記入 17:00 解散</p>	<p>■当日のスケジュール</p> <p>13:30 主催者あいさつ&amp;スタッフ紹介 13:40 ワークショップの趣旨説明 &amp;プログラム確認</p> <p>13:50 ◆①宿題写真投票 14:30 ◆②「今後も大切にしていきたいもの」 の議論 グループ：東西地区別2グループ</p> <p>15:45 休憩 16:00 ◆③「これからの山岡町について」の議論 グループ：東西混成2グループ 16:25 「これからの山岡町」についての発表 16:50 次回案内・閉会のあいさつ 16:55 感想カード記入 17:00 解散</p>

#### 4. 山岡町景観まちづくりWSの展開内容

表-1に第1～3回WS(写真-3)の概要を示す。以降では、これに基づいて当WSの「目的」「プログラム」「工夫点」「問題点」「成果」について、各回ごとに述べていく。

##### (1) 第1回WS概要(景観資源発掘段階)

a) 目的—第1回WSでは、景観計画策定へ向けた第一段階として、地域に根差した景観資源の発掘を行う。

##### b) 景観資源発掘のためのプログラム工夫点

①グループ分け—地域に根差した景観資源を抽出するため、WS参加者が当該地域の土地勘を通じて、より地域に密着した議論が展開できるよう、居住地に基づいて東地区と西地区にグループ分けを行う。

②「地図上まちなあるき」—筆者らの事前調査※4から捉えられた「山岡町は広域で集落が分散して拠点が乏しい」という特性を踏まえ、WSの限られた時間内では参加者の土地勘に基づき、地図上で景観資源を探すことが有効と考え「地図上まちなあるき」を実施する。その際に、「山岡町全体」と当該地域の玄関口としての「山岡駅周辺」の2種類の大地図を用い、これら地図上で景観資源の抽出を行う。

③「移動手段別景観資源探し」—参加者の身近な景観資源を捉えるため、移動手段別によく利用する「自動車ルート」「自転車ルート」「歩行ルート」を地図上に記入し、各ルートから視認できる景観資源の抽出を行う。

④宿題写真撮影—WS中に挙げることのできなかった景観資源をさらに補完するため、WS後に参加者や、当日参加できなかったが当WSに興味のある住民に対し、行政担当

者からインスタントカメラを渡してもらい、後日撮影したインスタントカメラと撮影写真に対してコメントを記入してもらった宿題シートを筆者らに郵送してもらう。

##### (2) 第1回WS結果および考察

a) 「地図上まちなあるき」による景観資源の抽出—参加者12名(東地区7名、西地区5名)のもと図-2に示すように、「地図上まちなあるき」によって、景観資源は東地区23件、西地区33件が抽出できた。また、これらの景観資源の内容に着目すると『収穫期のハザの風景がなくなってきた』『綺麗な田園風景が残る(写真-4)』など山岡町の現在と過去の比較や、昔からの風景といった、旧来から当該地域に住んでいる参加者だからこそ挙げることのできる意見が15件挙げられた。

一方、当日のまとめとして発表された内容に着目すると、東地区グループでは『明知鉄道への眺め』が挙げられ、西地区グループでは『陶土採掘現場』や『田代山に落ちる夕日』などが魅力要素として挙げられた(表-2)。

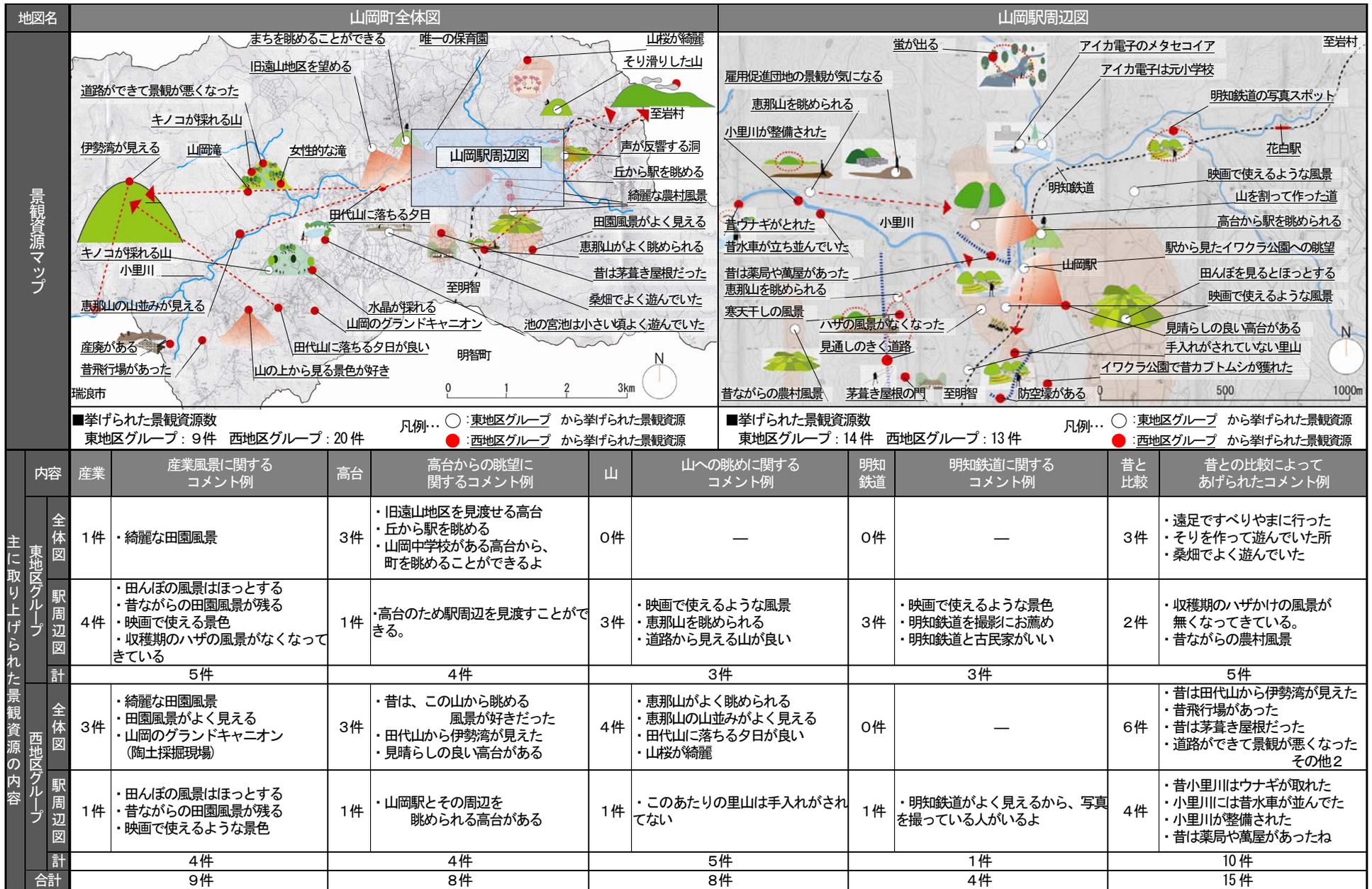
このように東地区と西地区の住民では、山岡町の景観資源に対する認識の差異が見られたことから、東・西住民



写真-3 ワークショップ風景



写真-4 山岡町の田園風景



図—2 第1回ワークショップの景観資源の抽出結果※5



際の評価基準として、日常から慣れ親しんでいるものや、地元地区にも存在する類似要素との比較を通して、相手方地区を認識している状況が伺えた。このことから、相手方地区の景観資源の評価(認識)に先立って、地元地区の景観資源を再認識しておくことはたいへん有効であったと考える。

他方『これは個人の茅葺き建築だから見てもしょうがないよ』といった、相手方地区の景観資源に対して評価を下せない参加者がみられた。そのため、たとえ個人の資産であっても景観資源のひとつであるといった前提条件の共有が景観系のWSには求められるといえよう。

### (5) 第3回WS概要(景観資源評価段階)

**a) 目的**—第3回WSでは東西2地区の地域連携をテーマとし、地区別の目標像の確立を行い、東西2地区の連携による山岡町の景観目標像の構築と、その実現へ向けた取り組み(アクションプラン)の提案を目的とする。

**b) プログラム**—今まで挙げられた東西の景観資源に対し東西両住民の共通の価値を見出すため、全員で「宿題写真投票」を行い、参加者間で山岡町全体の景観資源に対する評価を行う。その後、「今後も大切にしていきたいもの」をテーマとした議論を地区別に行い、最後に東西混成の2ループを構成して、山岡町の景観計画の目標像(「これからの山岡町について」)をテーマとした議論を行う。

### c) 地域交流を促すための工夫点

①「宿題写真投票」—投票対象とする写真(景観資源)の選定方法として、第1回WSの宿題として寄せられた写真の中から、第1回で挙げられた景観資源および、第2回のまちあるきルート選定の際に選出された写真を対象とした。そして東西2地区に分けて写真を掲示し、「山岡町の大切な風景・風習」というテーマで写真に対し投票を行い、地元地区と相手方地区の別に集計を行う。

表-3 第2回WS「地域交流型まちあるき」実施中に挙げられた参加者のコメント ※挙げられたコメントの中から筆者抜粋

相手方地区のまちあるき中に挙げられたコメント ※一部抜粋	
<b>新しい発見</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ここは昔の風景が残っているんだね、そのまま残っている！すごい！！</li> <li>これは学ぶべきことが多いかも。</li> <li>普段だと何気なく通り過ぎた。</li> <li>こんな場所しなかったなあ。</li> </ul>	<b>日常見ている物に着眼</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>山を見るには最適な場所だね。</li> <li>グランドキャニオン(陶土採掘場)から見た、南アルプスが綺麗！</li> <li>採掘場の風景よりも、中央アルプス・御嶽山・恵那山の風景の方が綺麗。</li> <li>山や田の手入れが綺麗。</li> <li>向いの山の眺めが美しい(前はゴミ捨て場)</li> <li>寒天と遠くに見える山並が良いね。</li> <li>モミジの木の下から見る、恵那山・御嶽山が良い。</li> <li>御嶽山と恵那山がよく見えるね。</li> <li>恵那山がよく見えるんだね。</li> </ul>
<b>地元地区にある類似要素と</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>東地区とは違った、のどかな田舎の風景が西地区の良いところかな。</li> <li>全体的に(西地区より)見晴らしが悪い。一電柱が邪魔であった</li> <li>上から(高台)見るところが東地区にはないかな。</li> <li>東地区は風景の変化に乏しい。(田園風景が主である)</li> <li>紅葉が綺麗だ！でも、小里川ダムの方が綺麗だね。</li> <li>岩村に勝るんじゃないかな！？</li> <li>西地区より、山の手入れが良い！</li> <li>(西地区より)里山の手入れがすごい！！</li> <li>全体的に風景の変化が西地区よりあまりないかも。</li> <li>山や田の手入れが、西地区より綺麗。</li> </ul>	<b>個人の意見</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>足沢公園は見た目は良いが個人のものなので、なんともいいづらいなあ。</li> <li>個人のものだから見てもしょうがないよ。</li> <li>個人が管理していたが、主人が亡くなって野放しになっている。</li> <li>何とかしたいけどどうしようもできない。</li> <li>ものすごいいいところ！しかし、私有地に入ることに抵抗があるなあ。</li> </ul>

表-4 第3回WS「宿題写真投票」投票結果 ※「山岡町地区全体」「東地区写真」「西地区写真」に分けそれぞれの上位5つを掲載

山岡町地区全体	東地区写真		西地区写真		写真投票に関する参加者のコメント ※一部抜粋
	東地区住民の投票結果	西地区住民の投票結果	東地区住民の投票結果	西地区住民の投票結果	
東・飯高観音 8票	寒天干しの風景 5票	飯高観音 5票	おぼあちゃん市・山岡滝 各4票	田代山・山岡滝・おぼあちゃん市 各3票	・投票理由に困惑して、以前から知名度の高い社寺に投票した ・相手地区の事はあまり良く知らないからな ・投票するのは意外と難しかったよ ・懐かしい感じだった ・里山の景観として外せない大切なイメージ ・前回の写真選定で似たようなことやったのに ・山岡町の住民ではなく外部の人の意見がましいな
西・おぼあちゃん市 7票	展望台から駅を望む 4票	瓜切り地蔵 4票	陶土の採掘現場・グランドキャニオンからの夕日 各3票	金刀毘羅神社・青木地蔵&恵那山・田代山山頂 各2票	
東・瓜切り地蔵 7票	茅葺屋根の門・飯高観音 各3票	田沢ダム・明知鉄道・山野野田からの御嶽山 各2票	金刀毘羅神社・青木地蔵&恵那山・寒天干し 各2票		
西・山岡滝 7票					
東・寒天干しの風景 6票					

②「今後も大切にしていきたいもの」の議論—今までのWSの結果を確認しながら、地元地区の大切なものを議論しあい、東西2地区ごとに景観計画目標像の構築を行う。

③「これからの山岡町について」の議論—今まで実施してきた東西に分けたグループ構成から、東西の住民が混成したグループ構成へ移行する。そして、山岡町景観計画の目標像の構築と、その目標実現のためのアクションプランについて議論を行う。

### (6) 第3回WS結果および考察

**a) 「宿題写真投票」**—写真投票の結果は、特に相手方地区の写真投票の際に、山岡町の代表的なものに投票が集中した(表-4)。これは、投票後の参加者の感想として『投票理由に困惑して、以前から知名度の高い社寺に投票した』『相手方地区の事はあまり良く知らないからな』などの意見が挙げられ、前回行った相手方地区のまちあるきの経験が薄らいでしまったと考えられる。このことから、写真投票を実施する際は、まちあるき実施直後などの相手方地区の印象が色濃く残っている時に行う配慮が必要であると考ええる。

**b) 「今後も大切にしていきたいもの」の議論**—議論の初期段階において、第2回WSのまちあるきの際と同様に『個人のものだから経営者の考え次第だよ』といった発言や『維持するのもお金がかかるから無理だね』などの受身的な発言や反発がみられ、議論が進展しない状況に直面した(表-5)。しかしながら、これらの意見に対し『夢でもいいので語り合ってください』とファシリテータ<sup>※7</sup>が促したところ、発言内容や議論に進捗が見られた。これより、議論の内容が個人の権利や行為、また、具体的な金銭面にまで及ぶ事項になると、参加者はそれらに対して明言することを控える傾向があることを捉えた。

**c) 「これからの山岡町について」の議論**—山岡町特有の

表-5 第3回WS「今後も大切にしていきたいもの」の議論中の発言

「今後も大切にしていきたいものについて」議論中に挙げられた反発的な発言 ※「今後も大切にしていきたいものについて」の議事録より一部抜粋
<ul style="list-style-type: none"> <li>これらのもの(景観資源)を残していきたいとは思いますが、やれる方法がないんだよ。</li> <li>自分たちでできる問題ではない。(写真投票であげられた大切なものを残していきたいこうとうという話し際して)</li> <li>結局は経営者の考え次第だよ。(山岡町の話しに触れると)</li> <li>私たちは外部の人の意見(ビジョン)がほしいんだよ。(山岡町のあるべき姿よという話し際して)</li> <li>維持するのにもお金がかかるから無理だね。(景観資源を手を入れて維持していきたいこうとうとなった際の話し際して)</li> <li>西でも東でも同じ意見だから、外部の意見をもっと欲しい。</li> <li>お金の問題があって存続させていくことは難しいんだよ。(景観資源を維持するのにはという話し際して)</li> <li>この議論は西・東で分けている場合じゃないんだよ</li> </ul>

「地歌舞伎(写真-7)」の文化やコミュニティの単位になっている「洞(ホラ)(写真-8)」とともに、その洞のシンボルである「樹木」、また、洞をつなぐ小里川を活用した景観づくりの提案が行われた(表-6)。これは、事前調査では把握できなかった、「洞」と呼ばれる目に見えにくい住民のコミュニティ領域を捉えることができた。

d) **小結**—今回行った第2回および第3回WSを通して、住民のコミュニティ意識を生んでいる「洞」を基本単位とした景観形成の重要性が明らかとなった。そこで今後は、それらの洞を結ぶ小里川や国道などの公共視点場からの景観特性分析が重要になると考えられる。



写真-7 山岡町地歌舞伎



写真-8 地域のコミュニティ単位である洞

## 5. まとめ

第1～3回WSを通じて得られた知見を以下に挙げる。

(1) **地域に根差した景観資源の発掘**—広域かつ拠点が乏しい地域での地図上まちあるきの実施や、居住地ごとのグループ分けの採用などといった、地域の特性に配慮したWSのプログラムを展開することは、参加者の身近な景観資源の発掘に有効であることがうかがえた。

(2) **地域連携を促す一助**—第2回および第3回で展開した地域交流型のWSでは、相手方地区の景観資源の発見・共有を実現する状況がうかがえた。そして、そこから住民が意識するコミュニティ領域を活用した(洞集落を単位とした)、景観形成施策が提案された。

(3) **参加者の景観に対する見解**—景観に対する見解の不一致による、受動的な発言や反発がたびたび見受けられ、WSの進行に影響を及ぼすことが起こりうる。このことから、景観系のWSでは、開催に先立ち予定したプログラムに捉われるのではなく、進捗状況に応じて、目的や開催回数などを改める柔軟な姿勢が求められるといえよう。

以上のような地域交流型の景観まちづくり方策は、拠点が分散し地域内の住民意識の連携を必要とする事例ばかりでなく、県境や市境を超えて風景がつながりあう地域といった、行政界を超えて作り上げる広域景観計画の際にも有益と認識する。

表-6 第3回WS「これからの山岡町について」の議事録より一部抜粋

東西混成第1班	東西混成第2班
<p>「<b>山岡町の植物を残していこう!</b>」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山岡のいたる所には、大切な植物がある ⇒それらを維持しよう</li> <li>山岡に住む子供たちに、植物に関する教育をしよう ⇒次世代を担う子供たちへ自然豊かな山岡を継承</li> <li>継続的な管理をしていこう ⇒住民の中でリーダーを育み、植物の管理をしていこう</li> <li>“ササユリ街道” など愛称をつけてみては!?</li> </ul>	<p>「<b>小里川と洞を大切にしていこう!</b>」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小里川沿いに桜並木を作ろう ⇒おぼあちゃん市から、人を町なかへ引き込みたい ⇒そこから洞めぐりに展開したら面白いかも</li> <li>回し舞台を復活させよう ⇒地歌舞伎をもっと外の人がたのびPRしたい!</li> <li>地域の様々な拠点に愛称を! ⇒外の人口には興味を地元の住民には愛着を!</li> </ul>

### 【謝辞】

本研究を共同で進めてきた、本学学生首代佑太氏また、山岡町景観まちづくりワークショップの実施にあたり、共同であつた、山岡町住民、恵那市職員、(株)プランニングネットワーク、早稲田大学佐々木葉教授、早稲田大学学生の皆様ここに記して謝意を申し上げます。

### 【補注】

- ※1 恵那市景観計画策定作業の具体的な取り組み内容は参考文献7に記載。
- ※2 第1回ワークショップの参加者は、山岡町内の区長や山岡町の振興事務所の方、施設経営者などのほか、小学生2名が参加。
- ※3 第2回、第3回の参加者層は、50～70代、男性が主であった。また、山岡町内を8つに分別する区長など、ステークスホルダが多く参加。
- ※4 事前調査についての具体的な内容は参考文献8に記載。
- ※5 挙げられた景観資源の中から、多く挙げられた内容の景観資源を取り上げた。
- ※6 山岡町では、まちあるきルートが広域にならざるをえなかったため、マイクロバスにて移動を行い、相手方地区の風景を体験する。またお薦めスポットではマイクロバスから下車し、その風景を体験する。そしてまちあるき終了後、グループごとに感想をまとめ発表し合う。
- ※7 当ワークショップでのファシリテータの役割は、進行役であり、プログラムの説明や発表準備の作業のほか、議論に参加し、専門家として参加者と対等の立場で議論をした。第1～3回ワークショップともに早稲田大学・日本大学の学生9名が担当した。

### 【参考文献】

- 1) 錦澤滋雄ら:「都市計画マスタープラン策定におけるまちづくりワークショップの現状分析—鎌倉市を事例として—」, 日本都市計画学会学術研究論文集No32, pp. 253~258, 1997.
- 2) 錦澤滋雄ら:「まちづくりワークショップの合意形成機能に関する研究—鎌倉市都市計画マスタープラン策定過程に着目して—」, 日本都市計画学会学術研究論文集No35, pp. 841~846, 2000.
- 3) 錦澤滋雄ら:「ワークショップによる計画枠組み作りにおける市民委員の役割—日野市都市マスタープラン策定における合意形成支援—」, 日本都市計画学会学術研究論文集No39-3, pp. 1~6, 2004. 10
- 4) 天野裕ら:「岡崎市奈良井公園改修の参加型プロセスにみるデザイン上の特性に関する考察」, 日本造園学会誌 65(5), pp. 731~734, 2002
- 5) 古賀元也ら:「景観まちづくりにおける空間イメージ共有手法に関する研究」, 日本建築学会計画系論文集第 73 巻第 633 号, pp. 2409~2416, 2008. 11
- 6) 高橋梢ら:「景観計画における地域の固有性と内発性を生かした景観形成に基準に係る—考察」, 日本都市計画学会都市計画報告集 No 8, pp. 119~124, 2009. 8
- 7) 岡田智秀他6名:「恵那市における持続可能な景観まちづくりに関する研究(その1)」, 第53回日本大学理工学部学術講演会予稿集, pp. 430~431, 2009. 11
- 8) 首代佑太他6名:「恵那市における持続可能な景観まちづくりに関する研究(その3)」, 第53回日本大学理工学部学術講演会予稿集, pp. 486~487, 2009. 11